

# 豊平のあゆみ

2022年 区制50周年  
特別企画 第1回

令和4(2022)年に迎える節目を前に、豊平区の歴史をたどります

## ～まちの生い立ち編～

幾多の転機を経て発展を遂げてきた豊平区。今もなお成長を続けるこの街は、市内でも有数の古い歴史が息づいています。今月の特集では、これまでの豊平区の生い立ちや移り変わりを写真や地図とともにご紹介。普段、何気なく過ごしている地元の歩みを振り返り、新しい魅力を発見してみませんか。

【詳細】区役所総務企画課 ☎822-2407

### 1 豊平の夜明け

#### 札幌開祖 志村鐵一

安政4(1857)年、江戸幕府の命により開削が始まった「札幌越新道」。銭函と千歳・勇払を結ぶ道中を流れた当時の豊平川は水量が多く、往来時の難所であったため、渡し舟が必要でした。そこで、川岸に通行屋(旅行者の休憩・宿泊施設)が設置され、その管理と渡し守の役目に志村鐵一が任命されました。妻子とともに現・豊平橋付近に居を構えた鐵一は、本州から渡ってきた市内最初の定住者といわれ、明治初期に架橋されるまで舟を渡していました。豊平区は、160年以上前のこの場所から始まったと言えるでしょう。



◀鐵一の功績をたたえて大正9年に建立された碑。当初は、住宅跡地(豊平3条1丁目付近)にあったが、昭和41年の豊平橋架け替えに伴い、翌年、現在地(豊平4条1丁目)に移設



#### 月寒村・平岸村・豊平村の誕生

原始林に覆われていたかつての豊平区は、明治政府が募集した移民の手によって開拓が始められました。明治4(1871)年には岩手県人などが月寒や平岸に、明治6(1873)年には石川県人が豊平に入植。厳しい自然や土地での開墾に挑む中、やがて村落が形成されていき、入植翌年に村が誕生します(左図参照)。

その後、月寒村・平岸村・豊平村と隣接する白石村(現在の白石区・厚別区の大部分)および上白石村(現在の白石区菊水付近)の計5村が一区域に集約化。中でも、明治18(1885)年に戸長役場(戸籍などを扱う当時の役所)が開設された豊平村は、以後25年間、豊平川から東側の行政の中心を担うこととなります。



▲開拓当時の平岸(明治4年ごろ)

- 【月寒村】現在の月寒地区や西岡地区の他、清田区全域、北広島市の大部分など
- 【平岸村】現在の平岸地区や南区の大部分など
- 【豊平村】現在の豊平地区と美園地区

年表	安政4 1857	明治4 1871	明治5 1872	明治7 1874	明治18 1885	明治35 1902	明治41 1908
	豊平川の東岸に志村鐵一が定住	岩手県人などが月寒や平岸に入植	月寒村と平岸村が開村	豊平村が開村	戸長役場(当時の役所)が豊平村に開設	月寒村・平岸村・豊平村の3村が合併し、新しい豊平村が誕生	町制施行で豊平村から豊平町に改称

## 2 広大な“新・豊平村”の発足

### それぞれの形で発展を見せた3村の合併

開村以降、平岸村は後に“平岸リンゴ”として有名になるリンゴの栽培で栄え、豊平村は室蘭街道（現・国道36号）から当時の札幌区に入る玄関口として商店が軒を連ねました。月寒村では大曲以東の分離（広島村新設、右図参照）が起きますが、明治29（1896）年の軍隊常駐を機に軍都として歩



▲月寒村に設置された軍隊（陸軍第7師団歩兵第25連隊）の建物

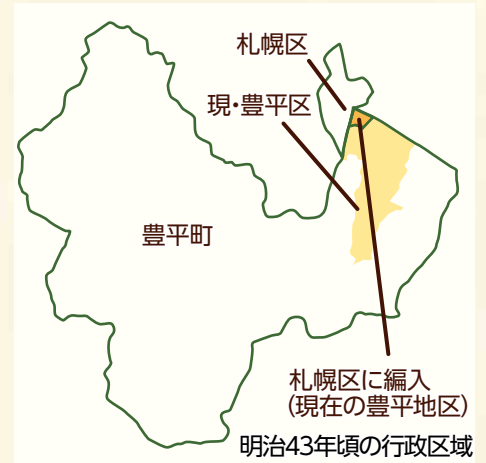
み始めます。その後、白石村・上白石村の独立により残った月寒村・平岸村・豊平村は、明治35（1902）年の北海道二級町村制施行により合併。ここに、異なる特徴を併せ持つ人口約8千人の新しい豊平村が発足しました。同年には、村議員選挙が初実施されるなど、村づくりの在り方も変化していくことになります。



## 3 村から町への飛躍

### 豊平町の始まりと進む近代化

発足から約5年で人口1万人を上回るまでに成長した豊平村は、明治41（1908）年に町制が施行され豊平町に改称。その2年後には、区域拡大などを理由に豊平町の一部（現在の豊平地区）が札幌区に編入され、町役場も月寒に移転するなど、明治末期の街の変容は目まぐるしいものでした。大正・昭和の時代に入ると、橋や道路の整備が進み、路面電車やバスといった交通機関が急速に発達。町内は、旅行者や買い物客でにぎわうようになります。昭和19（1944）年には、これまで使用されていた“つきさつづ”から月寒に呼び方が変わり、美園や福住などの地名も新たに生まれました。



### ～豊平町役場の<sup>へんせん</sup>変遷～



- 明治41～明治43年 豊平4条6丁目付近に役場設置
- ▼
- 明治43～昭和31年 豊平地区の札幌区編入に伴い、月寒西1条6丁目（現在の月寒児童会館付近）に新庁舎建設 **A**
- ▼
- 昭和31～昭和36年 警察などが使用していた月寒中央通7丁目の建物（現在の月寒公民館付近）に移転 **B**

明治43  
1910

昭和36  
1961

昭和47  
1972

昭和49  
1974

平成9  
1997

令和3  
2021

令和4  
2022

豊平町の一部（現在の豊平地区）が札幌区に編入。月寒に町役場新庁舎を建設

豊平町と札幌市が合併

政令指定都市への移行に伴う区制施行で豊平区が誕生。月寒に区役所仮庁舎を開設

区役所が現在地に移転

清田区が分区

月寒や平岸への入植から150周年。豊平町と札幌市の合併から60周年

豊平区の誕生から50周年



## 4 札幌市との合併実現

### うよきよくせつ 紆余曲折の末に決着した問題

戦後の懸案事項だった札幌市と豊平町の合併は、推進派の本間義孝氏が町長に当選した昭和32（1957）年6月から本格的に動き出し、調査・研究が進められました。ところが翌年4月、反対派議員が提出した「豊平町を市に昇格させる案」が可決されたことで事態は急変。以降、町議会では合併案が2度も否決されるなど、混迷を極めます。そんな中、昭和34（1959）年の改選選挙で、合併に賛成する議員が過半数の議席を獲得。合併への機運が一気に高まり、札幌市との条件交渉も進展を見せます。迎えた昭和36（1961）年3月、町議会での投票の結果、賛成多数で合併案が可決となり、ようやく町を二分した問題が終結しました。同年5月には署名を交わし、町民約8万人が正式に札幌市へ編入。こうして豊平町は、半世紀を超えるその歴史の幕を下ろすことになりました。



札幌市公文書館所蔵

◀町議会初日。合併反対派の住民約400人が、町長らの入場を阻止しようと議場前に集まる騒ぎが発生したため、警官隊が出動した（昭和36年3月）



札幌市公文書館所蔵

▲合併の公文書に署名する当時の原田札幌市長（右）と本間豊平町長（左）（昭和36年5月1日）



▲建設中の現・豊平区役所（昭和48年）

### 豊平区の船出

アジア初の冬季オリンピックが札幌で開催された昭和47（1972）年。この年、札幌市は政令指定都市の仲間入りを果たし、豊平区を含む7区が誕生しました（旧豊平町は豊平区と南区に分離）。昭和49（1974）年には、区役所が月寒の仮庁舎から現在地に移転し、新たな一步を踏み出します。その後も順調に発展を続けた豊平区は、宅地化の進行なども相まって平成8（1996）年に人口30万人を突破。著しい人口の増加を受け、翌年、南東部が清田区として分区し、現在の10区体制に落ち着きました。

## 5 新しい時代の幕開け

### “令和”も魅力あふれる街へ

今では、市内4位の約22万人が暮らす豊平区。国際規模の施設に恵まれた「スポーツのまち」として名高く、記憶にも新しい昨年のラグビーのワールドカップでは、国内外から訪れた多くの人々が声援を送りました。来夏の開催が予定されている東京オリンピックでも、札幌ドームでサッカーが行われる他、区内の一部がマラソンコースとなっており、一層の盛り上がりが見込まれています。

【参考文献】『新札幌市史』（第一巻～第四巻）、『豊平町史』、『豊平町史補遺』、『豊平区の歴史』など



▲ラグビーファンで満員になった札幌ドーム（令和元年9月）

次回は…  
2021年3月号

今後も、さまざまなテーマで今に至る豊平区の物語を掘り下げていきます



お楽しみに!



広告